臺中州北山坑　12. 6. 3　♀　多數

2. *Tetragnatha japonica* B. et S., 1906　ヤサガタアシナガグモ

臺中州北山坑　12. 5. 30　♂♀　多數

3. *Tetragnatha gracilis* Stoliczka, 1869　?

臺中州北山坑　12. 5. 30　♀　2（幼）

4. *Araneus dehaanii* Doleschall, 1859　ミツカドオニグモ

臺中州北山坑　12. 6. 3　♀　1

5. *Araneus scylloides* B. et S., 1906　サツマノミダマシ

臺中州北山坑　12. 6. 3　♀　1（非常に大形）

6. *Argiope keyserlingi* Karsch, 1878　ムシバミコガネ

臺中州北山坑　12. 6. 1　♀　4

7. *Nephila maculata* (Fabricius, 1793)　マダラヂョラウグモ

臺中州乾溪　12. 5. 25　♀　多數（幼）

高雄州恒春　15. 8. —.　♀　4（成）

8. *Suzumia orientalis* Kishida　スズミグモ

臺中州北山坑　12. 5. 30　♀　多數（幼）

9. *Gasteracantha kuhlii* L. Koch, 1838　トゲグモ

臺中州北山坑　12. 6. 3　♀　2

10. *Argyrodes miniaceus* (Doleschall, 1857)　アカキサフラフグモ

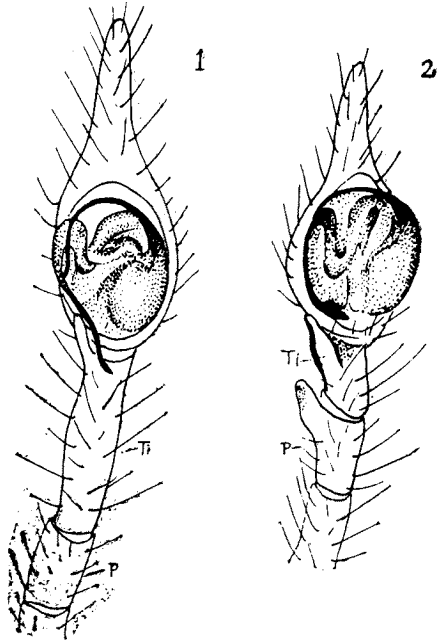
高雄州恒春　15. 8. —.（マダラヂョラウグモの網に寄生）　♀　2

11. *Dolomedes higenaga* Kishida, 1912　ヒゲナガハシリグモ

臺中州北山坑　12. 5. 30　♂♀　多數

愛媛縣產ナミハグモの一新種

八木沼健夫

昭和15年11月23日に三好保德氏に依り愛媛縣宇和島市滑床の松林にて採集された蜘蛛の送附を受けたが，その中に極めて小形の成熟せるナミハグモ3頭あ

第 3 圖

1. *Bansaia nipponica* の雄の觸肢
2. *Cybaeus Mellottéei* の雄の觸肢
P…膝節　Ti…脛節（長さの關係に注意）

り，從來發表せられたる *Cybaeus* 屬の何れのものに比しても非常に小さく形態的にも之に該當する種なく，爾來本種に關して調査研究を續けて來た所，今回之が新種なる事を認めこゝに記載する事にした。和名は形の小さき事を意味し，學名は三好氏に捧げたものである。

Cybaeus miyosii sp. nov.

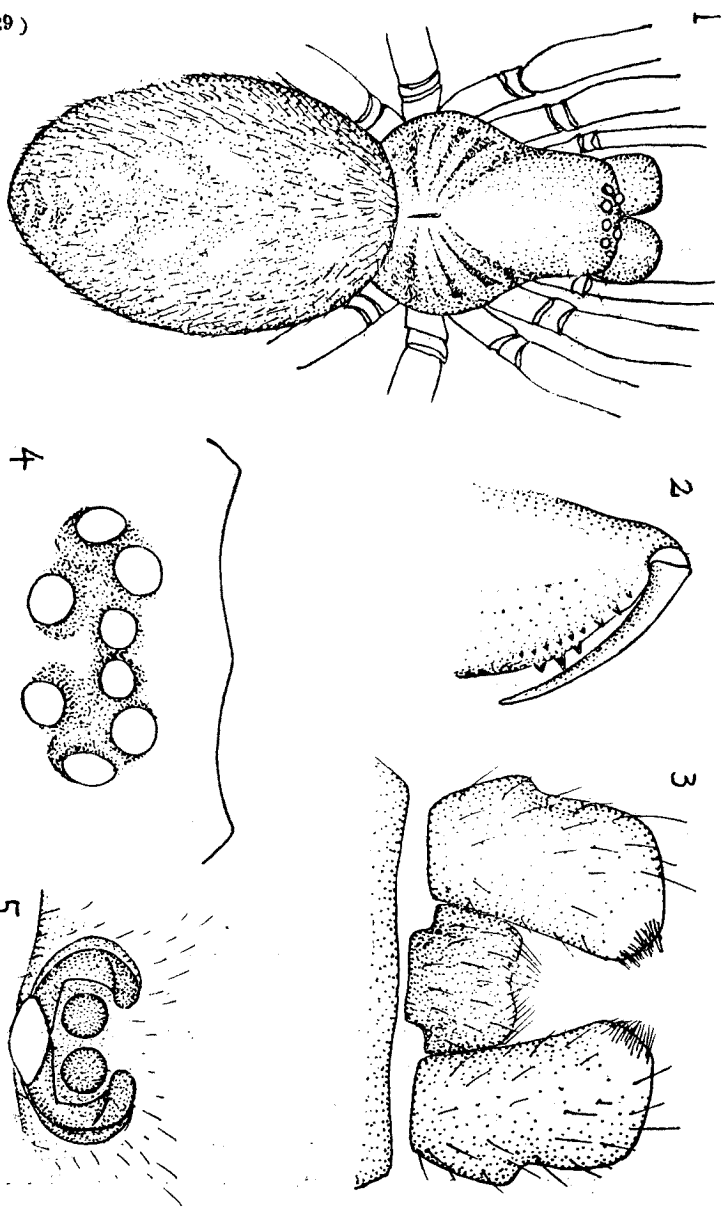
ヒメナミハグモ（新稱）

模式標本　上記3頭は何れも成雌で，その中の1を holotype とし他の2頭を paratype とする。holotype は筆者の標本 No. 325, paratype の1は No. 326 として保管し，他は三好氏に保管願ふ事とする。

測定（♀ holotype）單位 mm

全　長	第 1 脚	第 2 脚	第 3 脚	第 4 脚
3.7	4.3	4.0	3.4	4.5

色彩（♀ holotype）背甲は一様に黄褐色，放射溝に沿つて2對の淡黑い斑紋があり，胸部の後方は同様淡黑色の斑紋があるが不明瞭である。上顎・下顎及び下唇は濃い黄褐色で，下顎の內前方及び下唇の前方は白色を呈し黑色の毛を密生してゐる。胸板は黄褐色で黑毛を散布し，步脚は輪紋を缺き黄褐色なるも先端に到るに從ひ褐色を增す。腹部背面は灰白色の地に白色の斑紋を有するも地色淡き爲斑紋は判然としない。（paratype の1に地色の濃きものあり）白斑は前方に小さきもの1對，後方に稍々大きいもの3對あり，更に後方に形の不明瞭な斑紋が數對ある。下面も背面と殆ど同色であるが色淡し。性域は赤褐色を呈する。

形態（♀ holotype）背甲は長さ幅に優り第3・第4步脚間に於て最廣。頭部は後方に高く，中窩は縱向きで，頸溝及び放射溝を有する。眼は2列に並び前列は前曲（◡）後列は殆ど直線上に位置する。前側眼最も大きく，前中眼は最も小さい。前列眼は互に接近してゐるが直眼間の距離は直眼・第1間眼間の距離よりも小さい。第3間眼間の距離は第3・第2の間より僅かに廣い。第1・第3の距離は第3間眼間の距離よりも大である。眼はすべて黑色の地の上にあり，中眼域は下底>上底の梯形で長さ>幅である。額は廣い。上顎の前牙堤には3本の大きな齒を有し中央のものが最大，後牙堤にはやはり3本の大きな齒と之

1. 全形背面　2. 右側上顎　3. 下顎及下唇部　4. 眼（前上方より見る）　5. 性域

に續く數本の小齒がある。下顎は略々平行で 長さは幅の2倍より小さく，內側は前方で稍々接近し，先端は斜に切截されてゐる。前方最も幅廣く中央で狹くなり再び外側に突出て基部に細く終る。下唇は幅，長さに優り横に長い梯形で下顎の半分にも達せず。下唇の前方は少し凹む。胸板は長さ幅略々等しく，前端は切截狀で，後端は尖る。第2脚間最も廣し。步脚は第4脚最長で，第1・第2・第3之に次ぐ。脚端には3本の爪を有し上爪には齒を列生する。各脚の脛・蹠節に剛毛を有し，第1・第2の脛・蹠には各々2・2・2，第3・第4は少し不規則に配列する。蛛疣は前疣接近し後疣は前疣よりも短く1節である。間疣は痕跡的なもので認め難い。

備考 本種は *Cybaeus Mellottéei* (Simon) に似てゐるが步脚に輪紋なく，下顎の幅の廣い點により區別し得る。又體色及び步脚に輪紋なき點により *Cybaeus tetricus* (C. L. Koch) に似るも眼の配列及び上顎の牙堤齒の數を異にし容易に識別し得る。更に成體の小形なる事と epigynum の形に依り *Cybaeus* 屬の他の何れのものとも明かに區別する事が出來る。

カバキコマチグモの寄生蜂 イワタツツベツカフバチに就いて

關 口 晃 一

1. ま へ が き

筆者が昨夏（1940）輕井澤千ヶ瀧の淺間高原生物硏究所に滯在中採集した蜘蛛類多足類に就いては既に報告したところであるが，その際觀察されたカバキコマチグモ *Chiracanthium japonicum* Bösenberg et Strand の寄生蜂に就いてはその後各方面の御援助により漸く明かにする事を得たので，以下之に關して筆者の觀察及び調査に依り知り得たことを簡單に記して置きたいと思ふ。種々御面倒をお掛けした高島春雄氏，植村利夫氏及び文獻の惠與又は貸與その他に格別なる便宜を忝くした岩田久二雄，安松京三，荒木等等の諸氏に厚く御禮申上げ度い。猶本觀察は岡崎常太郎氏の御厚意に依つて上記硏究所に滯在中な